赤ちゃんの四季（15）　平成16年秋

自然体で育てる

われわれは，遺伝子上にプログラムされた情報にもとづいて，老いていきます。でも，そのスピードは，環境因子にかなり左右されています。人生を焦って，急ぎ足で過ごしていると，明らかに早く老いていくようです。

最近，赤ちゃんの早期教育に関心がもたれています。早く子どもにものを教えると，知識は確実に増えていきます。音楽やスポーツのように，大人になってもみんなができるとは限らない固有の感性を必要とする領域では，早期教育が役立つかもしれません。しかし，自分の名前を漢字で書いたり，たし算ができるといった，一定の年齢になれば誰でもできることを，他人より少し早くできたとしても，親の自慢の種になるかもしれませんが，その子の能力がより開発されたか疑問です。

「詰め込み教育」から「ゆとり教育」へ，またその揺り戻し。我が国の学校教育においては，どうも知識量だけがスケールになっているようです。少なくとも，幼児期や小学校の低学年では「こころのあたたかさ」や「人との触れ合い」を大切にする教育プログラムであって欲しいものです。「よーく考えよ，お金は大事だよ」というコマーシャルに乗って，無邪気に歌い，踊る幼稚園児をみると，寂しい思いがします。

赤ちゃんの瞳は澄み切っています。周りの人間に何の疑いも抱かない純真無垢な蒼い瞳です。経済至上主義の大人に都合のよい育て方ではなく，赤ちゃんの発育に合わせた自然体での伸び伸びした，「ゼロ歳児のこころを大切に育む」，子育てでありたいものです。